

令和3年度第4回滋賀県総合教育会議の結果について

教育・文化スポーツ常任委員会資料3
令和4年(2022)5月18日
教育委員会事務局教育総務課

日時：令和4年3月25日(金)10:30~12:00
場所：県庁東館7階大会議室(一部出席者はオンライン会議システムを活用)
出席者：三日月知事、中條副知事、福永教育長
土井委員、岡崎委員、窪田委員、野村委員
ゲスト：栗東市立栗東中学校 校長 安土憲彦
議題：コロナ禍における学校の対応と課題について



事務局からコロナ禍における学校の取組状況について説明があり、続いて栗東中学校安土校長からの学校現場における取組についての発表の後、コロナ禍における取組の成果や課題について意見交換を行った。最後に本年度の総合教育会議の振り返りを行った。

会議における主な意見等

(1) コロナ禍を契機とした児童生徒の主体性の発揮

- ①子どもたちがコロナ禍でも体育祭等の学校行事開催に向けて主体的に取り組むことは重要である。打合せを通じて他人の意見を聞き、自分の意見を深め、合意形成を図った経験は、不確実性のある世の中を生きていくに当たり貴重である。子どもたちを信頼して任せることが重要である。(中條副知事、委員、安土校長)
- ②生徒同士で話し合うことは、自分の意見が取り入れられることで自尊感情が高まって、クラスの雰囲気がよくなり、子どもたちを落ち着ける効用があり、生徒指導にもつながってくる。(安土校長)
- ③教員の異動は、生徒同士の話し合いを通して主体性を育むノウハウをエキスパートの教員だけにとどめずに、メンバーが入れ替わっても継続していくことや、他校にも広めていく効果がある。(委員、安土校長)
- ④全国と同じ定規ではなく、滋賀独自の定規で子どもたちの成長を図り、各学校が主体的に取組を進められるようにすることが適当である。(安土校長)

(2) コロナ禍を契機とした行事等の見直し、意義の再確認

- ①ICTの活用は大切であるが、ICTでの代替が難しく、何とか学校という場所でやろうと工夫したものこそ、今後も学校で取り組むべき重要なものである。(委員)
- ②部活動の時間が制限されたことは、その反面として、勉強が苦手な生徒に対する指導や、教材研究、研修の時間を持つことができたなど、働き方を見直すきっかけになった。(安土校長)
- ③コロナ禍を機に、取捨選択で不要な活動をやめる改革も重要であるが、子ども、学校、地域にとって継続するべき行事等を議論していくことも大切である。(委員)
- ④今後の学校教育を考えるうえで、対面ならではの良さもあるが、ICT活用により物理的距離があってもつながれる経験をしたことは大事にしていくべきだと思う。(委員)
- ⑤コロナ禍を契機としたICTの積極活用は、オンラインの効用の最大化を図るべき。一方で、リアルでないと伝わらない触覚や味覚、場の熱量といった実感覚を大事にするべきである。(三日月知事)
- ⑥コロナ禍を経験して危機は転機、転機は好機と実感している。夢は子どもにあり、知恵は現場にあるもの。(三日月知事)